

RETOUCHING OF ART ON PAPER

紙に描かれた芸術作品の補彩

# 修復は紡ぎだす詩

ティナ・グレット・プーソン 著

*Tina Grette Poulsson*

鳥海 秀実 [監訳]

岡墨光堂 / 杉下 彩 [翻訳]

MIYOSHI  
Art Publishing

序文	8
謝辞	10
第1章 はじめに	13
論議の主題	14
補彩の定義	16
修復 (restoration)	16
復元 (reconstruction)	17
補彩に関わる用語	18
〈欠損部の補填 loss compensation〉	19
〈イメージの補完 image reintegration〉	19
〈補彩 inpainting〉	20
〈補彩 retouching〉	20
〈色調合わせ toning〉	24
その他の用語	24
紙本絵画と油絵の補彩の比較	25
紙本絵画と文書資料の補彩の比較	26
第2章 紙本絵画の補彩の歴史	27

紙本作品の保存修復の発展	28
コレクションに行なわれた処置による修復と補彩への影響	31
16世紀のコレクション	31
17世紀のコレクション	33
18世紀のコレクション	36
19世紀における修復	37
初期の修復家たち	43
芸術家による補彩	43
蒐集家による補彩	44
日曜修復家	46
修復家の評判	47
手引書の中に見られる補彩に関する助言	50
紙本作品の修復についての初期文献	50
フリードリヒ・ルカヌス Friedrich Lucanus (1812年)	51
フリードリヒ・ヴェルシュ Friederich Welsch (1834年)	53
アルフレッド・ボナルド Alfred Bonnardot (1846年)	54
ヨーゼフ・フレデリック・アウグスト・シャル Joseph Frederick A. Schall (1863年)	59
蒐集家向けの手引書と自家用入門書	59
モーリス・ジェイムズ・ガン Maurice James Gunn (1911年)	60
トーマス・リチャード・ボーフォール Thomas Richard Beaufort (1926年)	65
ハロルド・J・ブレンダリース Harold J. Plenderleith (1937年)	68
マックス・シュヴァイidler Max Schweidler (1938年)	70

新しい傾向	73
第3章 紙本絵画作品と歴史意識	83
芸術表現としての紙本絵画作品	84
版画の評価	84
素描の評価	85
歴史意識	88
補完的な補彩への反応	94
近代保存修復理論の対極する概念と発展	100
芸術作品の価値	107
第4章 補彩の倫理	113
補彩に対する反論	114
可逆性の原則	114
偽造と偽りの情報	121
保存 対 修復	125
手先の技能	126
保存修復専門家の選択に影響を与えるその他の要素	127
博物館における補彩と個人レベルで行なう補彩	128
補彩の正当化	129
判読性と美観	129
作品の調和を乱す損傷	130

記録	130
倫理綱領における正当化	130
問題をかかえる紙資料の種類	131
文書資料	131
現代美術	131
価値の高い作品	132
スケッチ	133
その他の例	133
第5章 補彩と復元の実際	135
倫理的問題	136
作品の美観	136
復元またはファクシミリを使用した補完	137
版画や素描の支持体に施した補彩の可逆性の問題	141
絶縁層	142
絶縁層に関する実験	144
補彩の除去	145
代替的な処置方法	146
色と光	147
色	147
表面	149
条件等色（メタメリズム）	149

照明	150
顔料を用いない補彩の方法	153
紙による上貼り	154
パルプや紙繊維による上貼り	157
粉末セルローズ	161
古紙からの抽出物	161
カラメル水溶液	163
大理石の粉末	163
ファクシミリを用いた補完とデジタル復元	163
顔料を用いた補彩の方法	167
色材	167
適用方法	170
媒剤と被覆剤	171
素描、パステル画、水彩画およびグアッシュ画の補彩	173
版画の補彩	177
第6章 結び	183
著者から日本の読者へ	ティナ・グレッテ・プールソン 187
翻訳者によるあとがき	岡 泰央 188
[参考文献]	192
著者紹介／監訳者紹介	206・207